

この秋 佐高信は
超辛口で北海道を
行脚(あんぎゃ)する!

フクシマの惨事はまさに人災である。ならば誰がそれを招いたのか? 政・官・財の権力にとりこまれた「原子力村」。それを支えた大手メディア、嘘付き御用学者、エセ文化人。それらを名指しで批判することなくしてどうしてこの日本の不幸を希望につなげるかなど出来ようか? 辛口評論家は今、渾身の怒りをこめて告発する!

「原発安全神話は誰がつくったのか?」

さ たか まこと
佐高 信講演会



プロフィール

1945年山形県酒田市生まれ。慶應義塾大学法学部卒業。高校教師、経済雑誌編集長を経て評論家に。「社畜」という言葉で日本の企業社会の病理を露わにし、会社、経営批評で一つ分野を築く。更に、憲法・教育・文学など広い視野から評論活動を展開中。著書に「日本国憲法の逆襲」「田原総一郎よ驕るなかれ」「福沢諭吉伝説」「魯迅烈読」「戦争と日本人」「罪深き新自由主義」など多数。近著に「拝啓藤沢周平様」「原発文化人50人斬り」など。現在「週刊金曜日」編集委員。同誌に「抵抗人名録」を連載中。



いずれの会場でも著書及び週刊金曜日などの販売とサイン会を行います。どうぞ沢山の方々の御来場をお待ちしております!

二〇一一年五月三〇日
「原発文化人50人斬り」
毎日新聞社
あとがきより

私の怒りはおさまらない。

き終えてなお

ないのか。書

せるべきでは

幸田を降板さ

原発文化人や原発戦犯を糾弾してきて思うのは、ねられた可能性があるので、そうならなかった人がいるということである。たとえば元プロ野球選手の張本勲である。ヒロシマで被爆した張本はもろろん、こうした人たちはやはり譲れぬ一線をもっているのだから。ノーテンキな弘兼憲史や幸田真音などは格段に違うと思うゆえんである。

俳優でも山本太郎は反原発を訴えて、予定されていたドラマから降ろされ、それでもめげずにデモにも加わった。メディアはこうした人間をこそ登場させ、弘兼や幸田を降板させるべきではないのか。書

◆講演会は3会場とも同じ演題で行われます。入場料 **各会場 500円** ※前売・当日共

日時	会場	問合せ先
2011年 11月1日(火) 午後6時半(開場30分前)	名寄市総合福祉センター (名寄市西1南12) TEL 01654-3-9862	TEL 01654-2-1168 名寄地区平和運動フォーラム 090-9088-1183 熊谷 090-3399-8007 竹中
2011年 11月2日(水) 午後6時(開場30分前)	室蘭市民会館 (輪西町2-5-1) TEL 0143-44-1113 [チケット扱い] ぶらっとてついち くりんびーす・お米のますおか他	TEL/FAX 0143-27-1181 高橋 後援/室蘭市教育委員会 北海道新聞室蘭支社・室蘭民報社 週刊金曜日室蘭読者会
2011年 11月3日(木・祝) 午後1時半(開場30分前)	北海道教育会館ホテルユニオン7F大雪 (札幌市中央区南3西12) TEL 011-561-6161	TEL 011-709-6212 FAX 011-708-0669

主催 佐高 信 講演会実行委員会